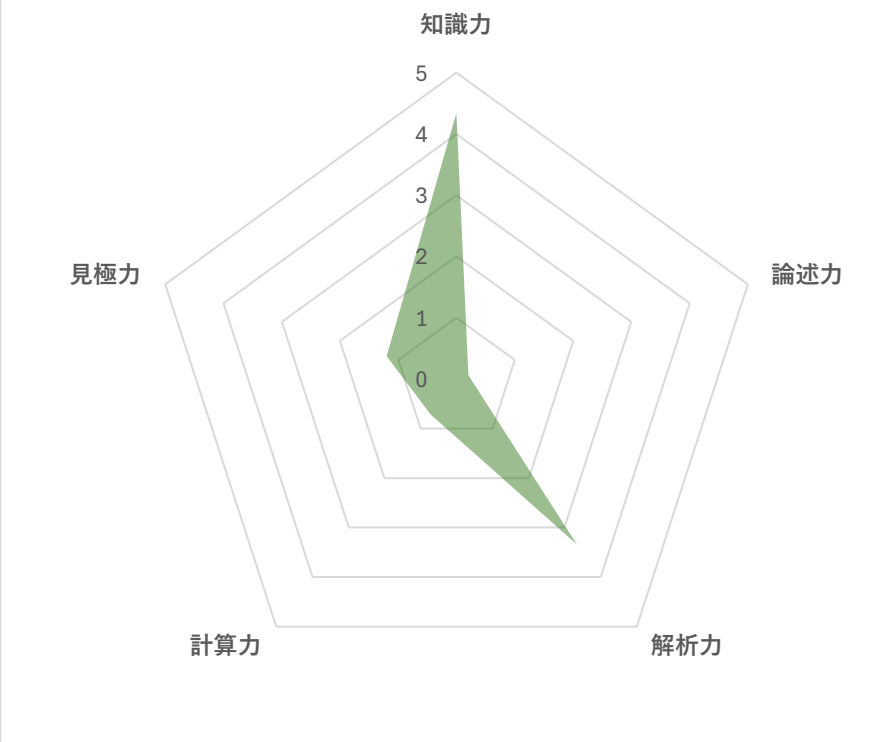
2025 年度　1月23日　実施　私立　杏林大学　医学部　講評　生物

## 総合分析

| 試験区分 | 一般 |
|---|---|
| 制限時間 | 50分（理科２科100分） |
| 大問数 | 全４問 |

### 合格に要する能力（５段階）




| 合格に要する能力（５段階） | | |
|---|---|---|
| 知識力 | 4.1 | 出題分野の幅広い知識を有するか |
| 論述力 | 0.0 | 設問の指定に沿って的確に記述する力 |
| 解析力 | 3.1 | 図表データなどから分析・解析する力 |
| 計算力 | 0.5 | 式を組み立て，正しく計算する力 |
| 見極力 | 1.0 | 難度を判断し，適切に時間配分する力 |

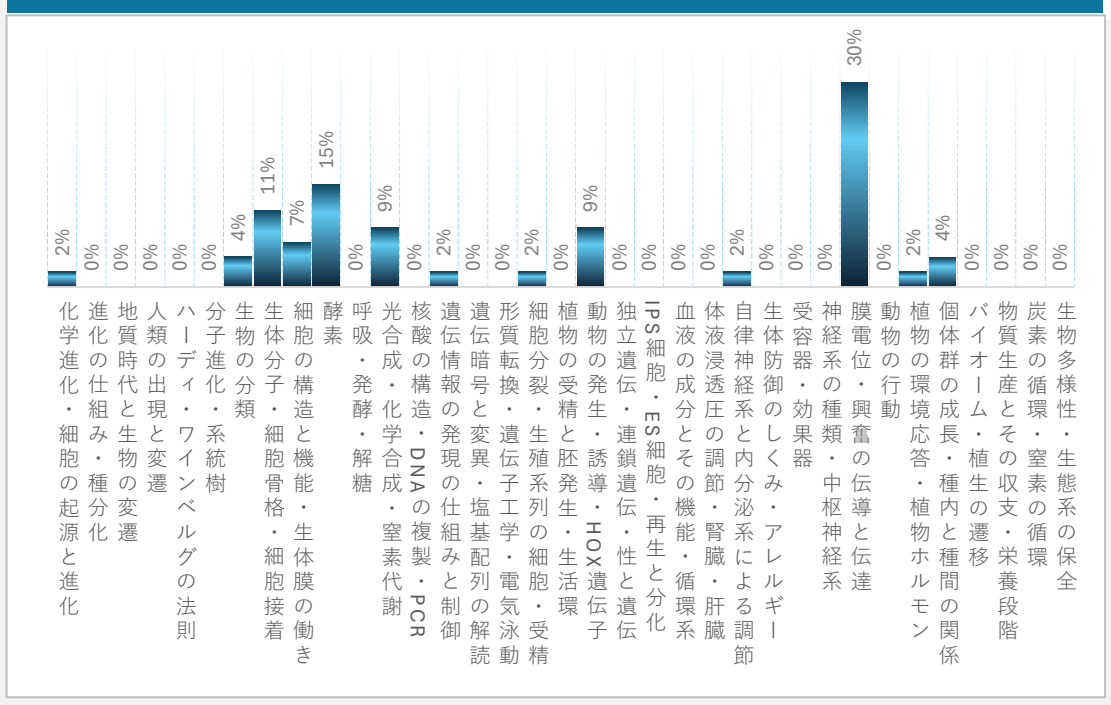
| 出題分野 | |
|---|---|
| 系統と進化 | 7% |
| 生命現象と物質 | 41% |
| 遺伝子 | 2% |
| 生殖と発生 | 11% |
| 生物の環境応答 | 32% |
| 生態 | 7% |

### 本年度 解答形式

選択肢 100%

| 本年度出題テーマ一覧 | |
|---|---|
| 第１問 | 小問集合 |
| 第２問 | 生存曲線・ミクロメーター・光合成・母性遺伝 |
| 第３問 | 興奮の伝導と伝達・空間的加重 |
| 第４問 | タンパク質の構造・酵素反応の阻害 |

### 本年度 出題詳細分類




| 特殊問題の有無 | 数理生物学なし | 生物物理なし | ノーベル賞なし | 範囲外問題あり | 長文論述なし |
|---|---|---|---|---|---|

| 特記事項 | 特になし |
|---|---|

### 総合評価

| 難度 | 1.8 | 最難を５とする問題自体の難度 | やや易しい |
|---|---|---|---|
| 分量 | 46分 | 完答に要する時間（制限時間は50分） | 標準 |

| 一次合格に必要な正答率（予想） | 77% |
|---|---|
| | 高い正答率を要する |

| | |
|---|---|
| 入試の特徴と対策 | 標準的なバランスのよい問題で，高校での学習で十分に対応できる。 |
| 入試から見る大学が求める学生像 | 高等学校での学習成果を調べる基礎的な設問が多い。大問1および大問2で幅広い分野の理解を試し，大問3と大問4で詳細な知識や解析力，考察力を問う構成である。標準的な知識と解析力をもった学生を求めている。<br>大問4で出題された Michaelis–Menten の式は，高等学校の生物の教科書に記載がない。しかし，既卒性の多くは予備校などで学習している内容であり，一歩進んだ知識や理解も求められている。 |